

シッターの視点から考える「保育の質」

現場の実態と求められる支援を探る意識調査

■シッターという仕事について	3
■保育の質を高めるには	7
■シッターの働き方について	10
■こども家庭庁に期待すること	12
■まとめ	16

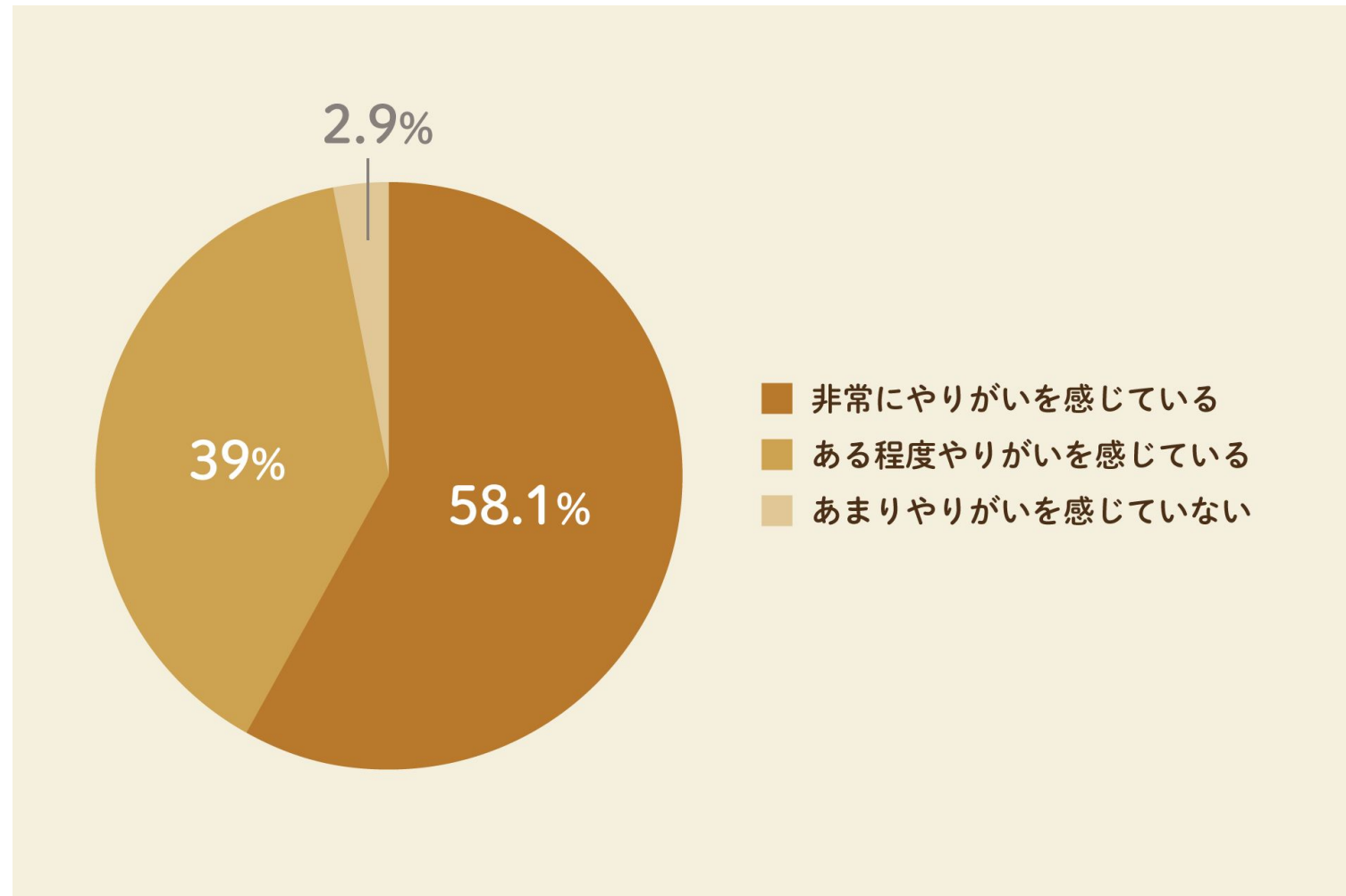
このアンケート調査は、ベビーシッターの皆様が日々の保育で感じる「保育の質」や、質を高めるための要素、今後のスキルアップ意欲について、現役のシッター 172名から意見を収集したものです。



現在、シッターの仕事に対してどのような想いを持っていますか？

「非常にやりがいを感じている」と回答した人が58.1%と過半数を占め、さらに「ある程度やりがいを感じている」人も39%にのぼる。これにより、97.1%のシッターが何らかのやりがいを感じていることが明らかになった。

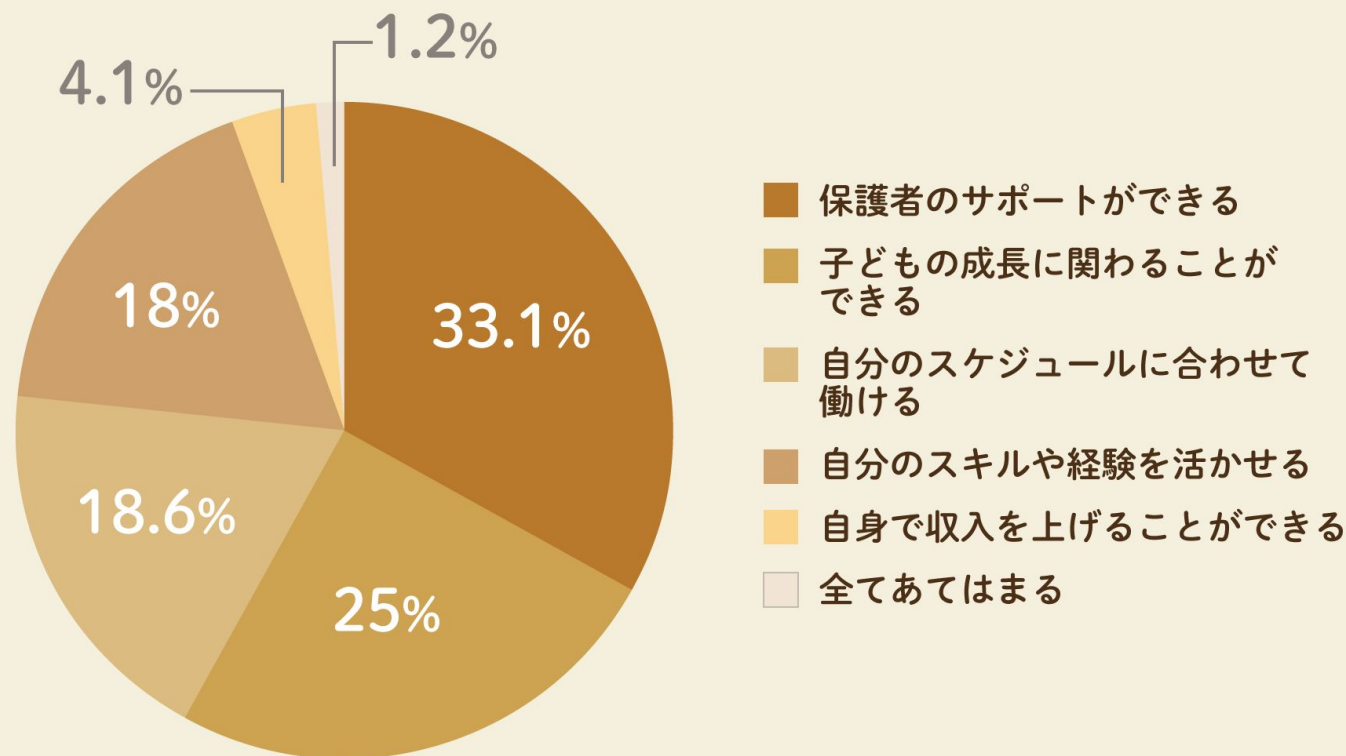
一方で、「あまりやりがいを感じていない」と答えたのは2.9%にとどまり、「全くやりがいを感じていない」との回答はゼロだった。これらの結果から、シッターの仕事は高いモチベーションを持って取り組める職業であることが分かる。



シッターという仕事に関して、どんな点にやりがいを感じますか。

「保護者のサポートができる」と回答した人が33.1%と最も多く、次いで「子どもの成長に関わることができる」が25%となった。これに「自分のスキルや経験を活かせる」(18%)、「自分のスケジュールに合わせて働ける」(18.6%)がほぼ同程度の割合で続く。

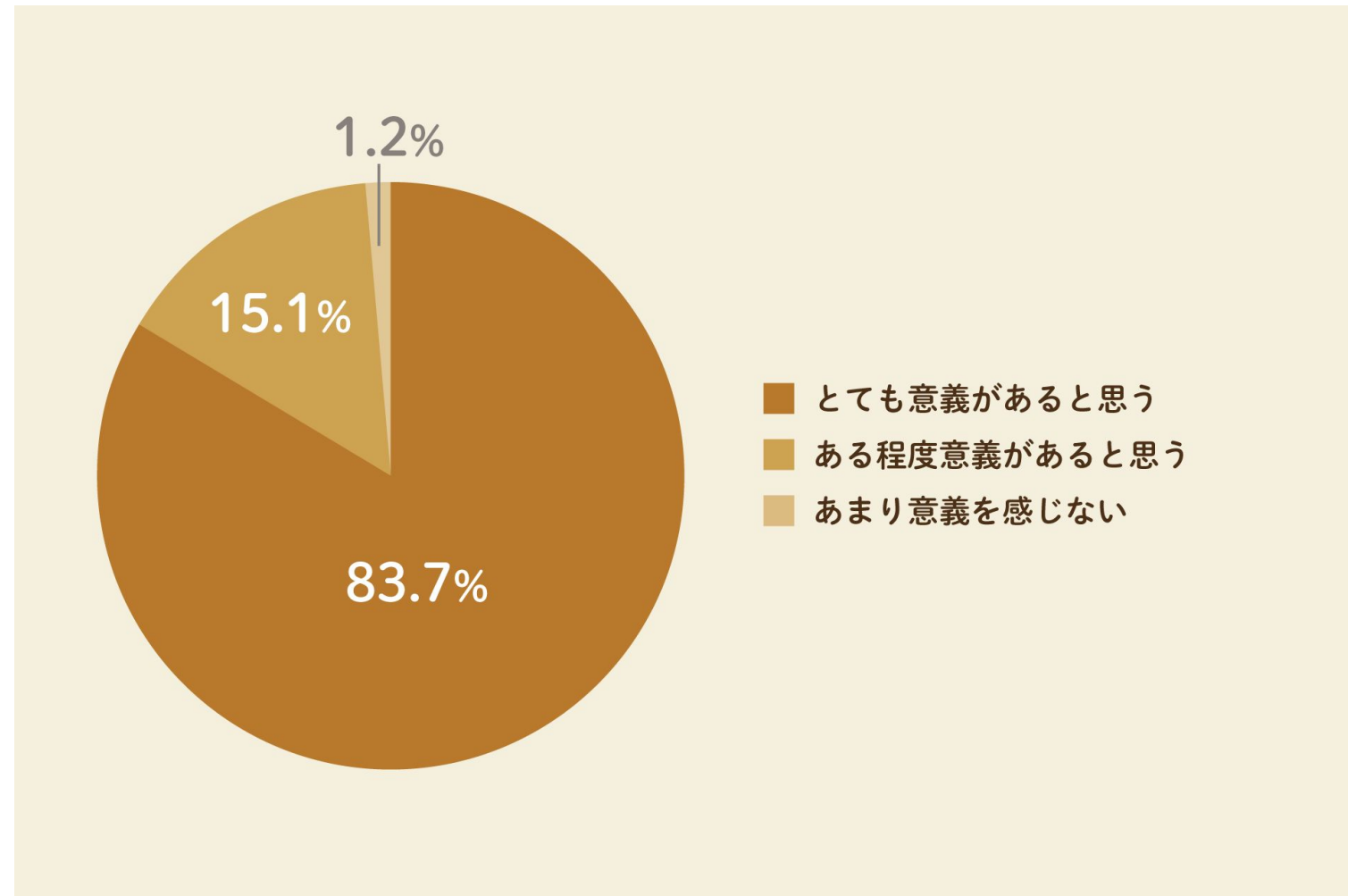
一方で、「自身で収入を上げることができる」と答えた人は4.1%と少数派であり、収入面よりもシッターとしての貢献度や働き方の柔軟性に魅力を感じる傾向が見られた。



シッターという仕事の社会的意義について、どのように感じていますか？

シッターという仕事の社会的意義について、98.8%の回答者が「とても意義がある」または「ある程度意義がある」と評価しており、そのうち「とても意義がある」と考える人が83.7%と圧倒的に多い結果となった。

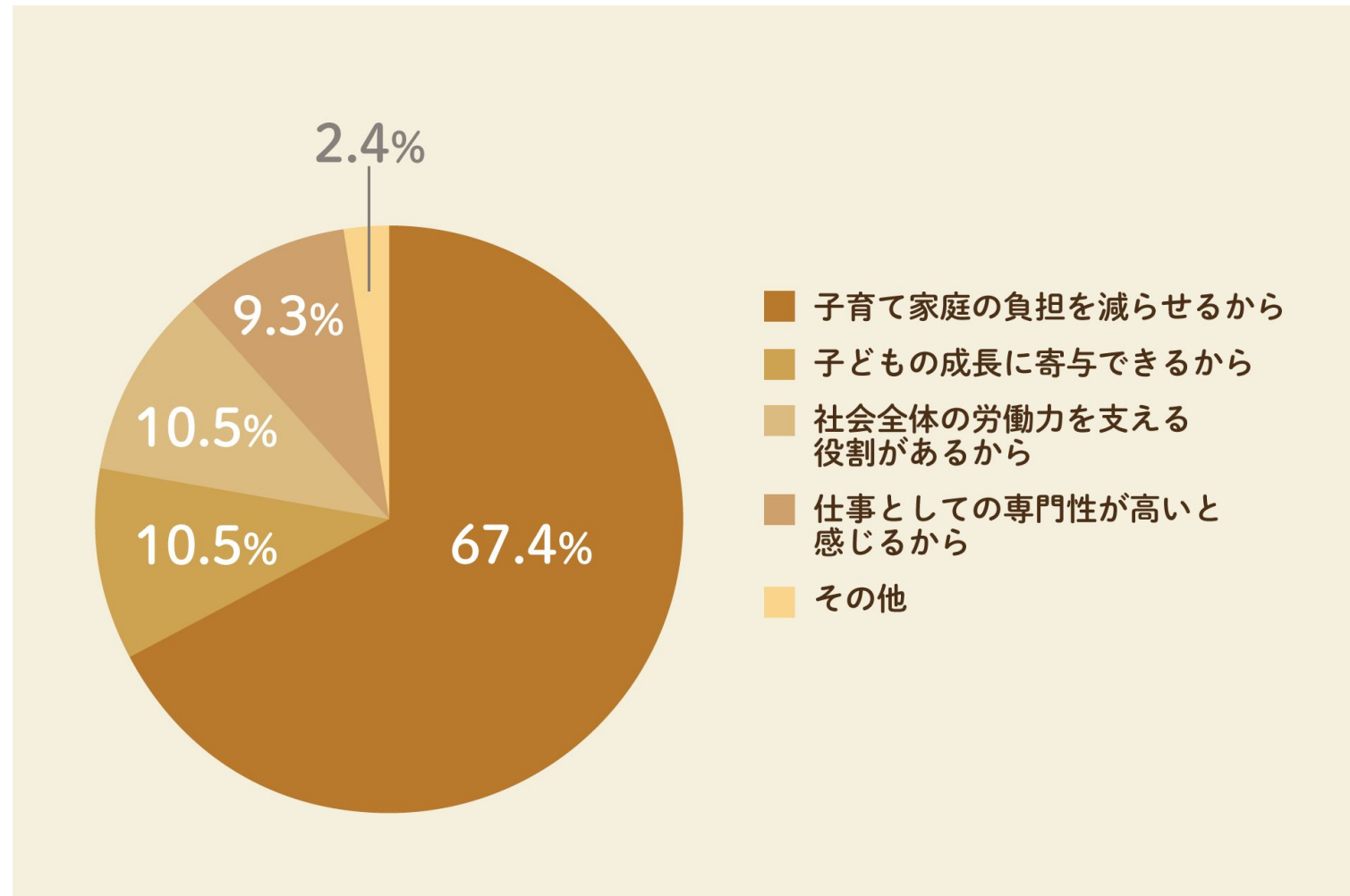
一方で、「あまり意義を感じない」と答えた人はわずか1.2%にとどまり、「全く意義を感じない」との回答はゼロであった。この結果から、多くの人々がシッターという仕事を社会的に重要な役割と認識していることが明らかである。



なぜ社会的意義を感じるのか、その理由を教えてください。

「子育て家庭の負担を減らせるから」が67.4%と最も多く挙げられた。これは、シッターとして日々保護者のサポートを行う中で、その支援が家庭にとって大きな助けになっていると実感していることを示している。

「子どもの成長に寄与できるから」と「社会全体の労働力を支える役割があるから」はともに10.5%で並び、子どもの発達への関わりや、共働き家庭を支える側面もシッターにとって重要な意義として認識されていることがわかる。さらに、「仕事としての専門性が高いと感じるから」は9.3%となり、シッター自身が職業としての専門性を意識していることが伺える。

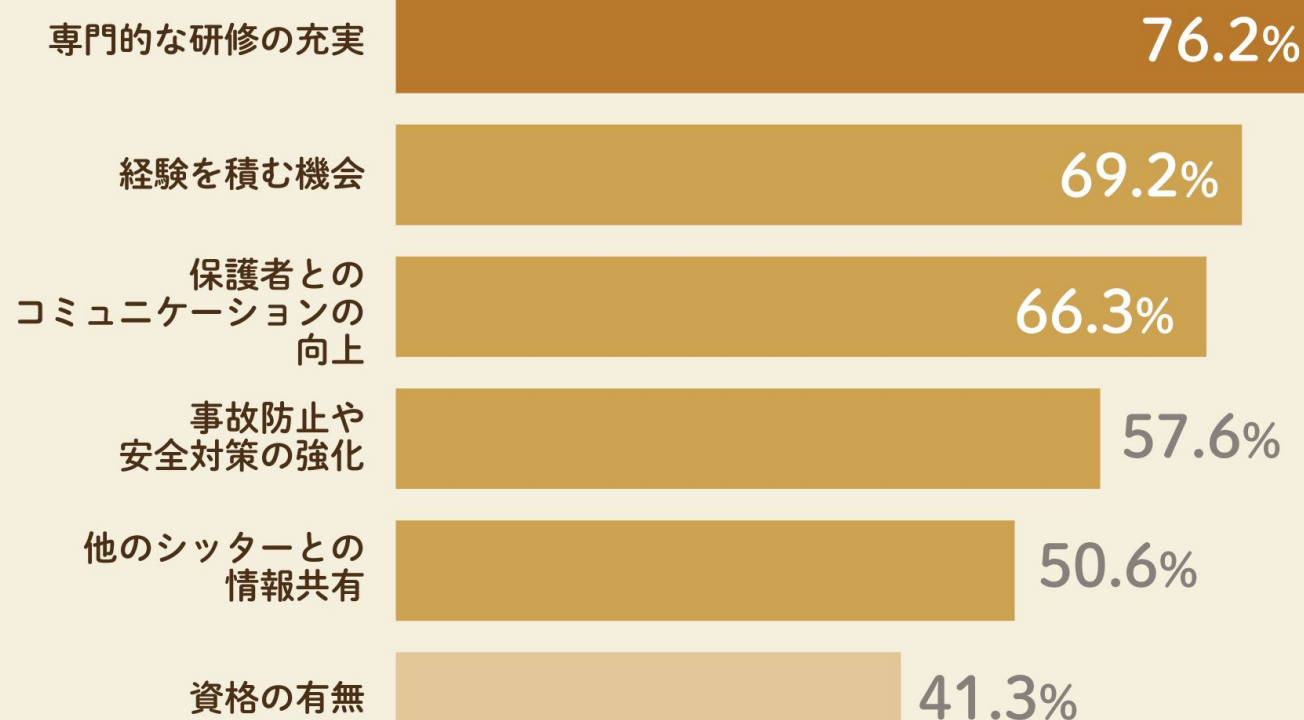


シッターとして働く上で、保育の質を高めるために重要だと感じる要素は？ ※複数回答

保育の質を高めるために最も重視されているのは「専門的な研修の充実」(76.2%)であり、次いで「経験を積む機会」(69.2%)、「保護者とのコミュニケーションの向上」(66.3%)が上位に挙げられている。このことから、専門知識や技術の継続的な習得、実践を通じたスキル向上、そして保護者との信頼関係構築を重視していることが分かった。

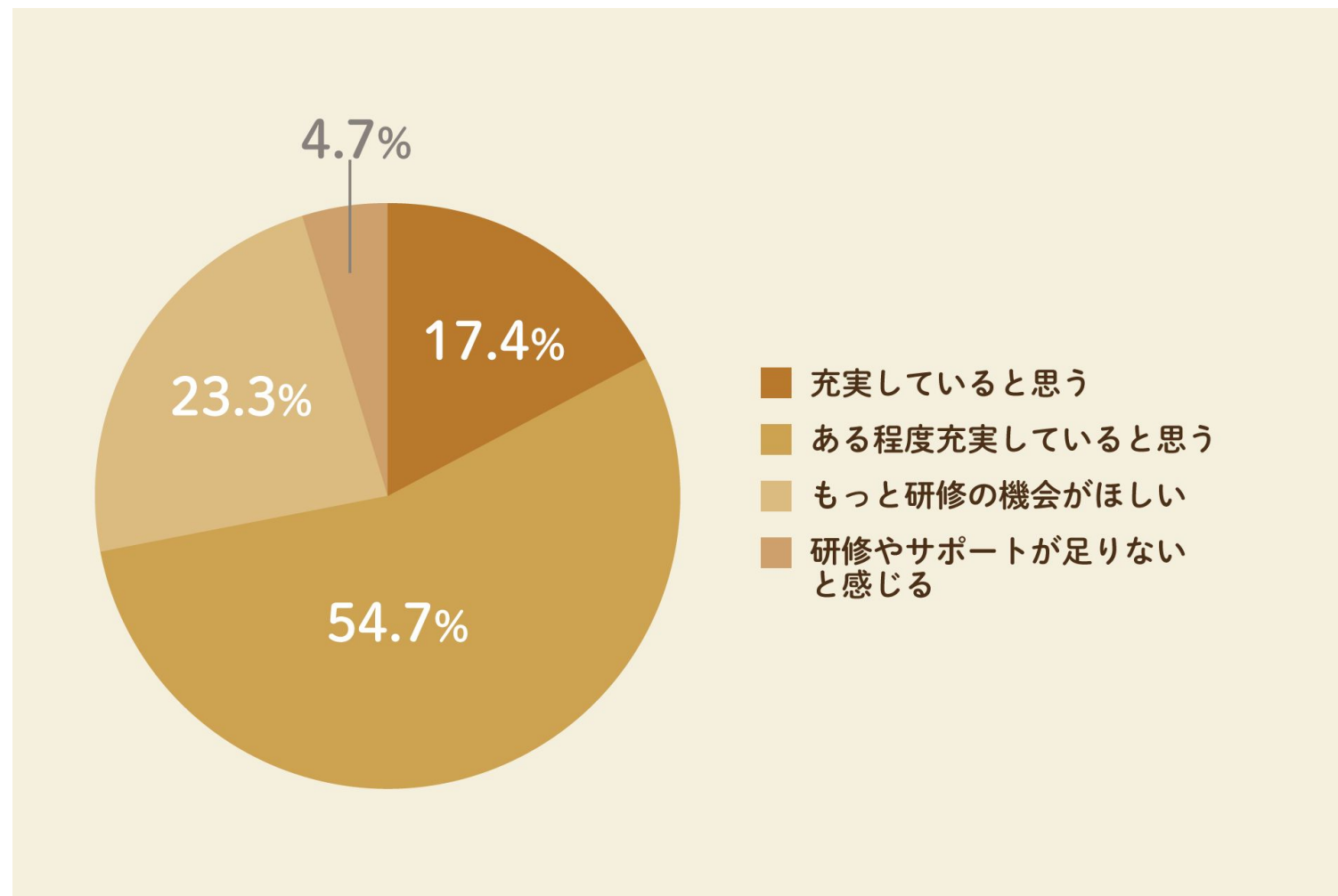
さらに、「事故防止や安全対策の強化」(57.6%)、「他のシッターとの情報共有」(50.6%)も重視されており、安全な保育環境の提供やシッター間の連携も質の高い保育に不可欠であると考えられている。

これらを通して多くのシッターは多岐にわたる要素を総合的に高めることで、質の高い保育を実現しようとしていることが伺える。



現在の研修制度やサポート体制について、どう感じていますか？

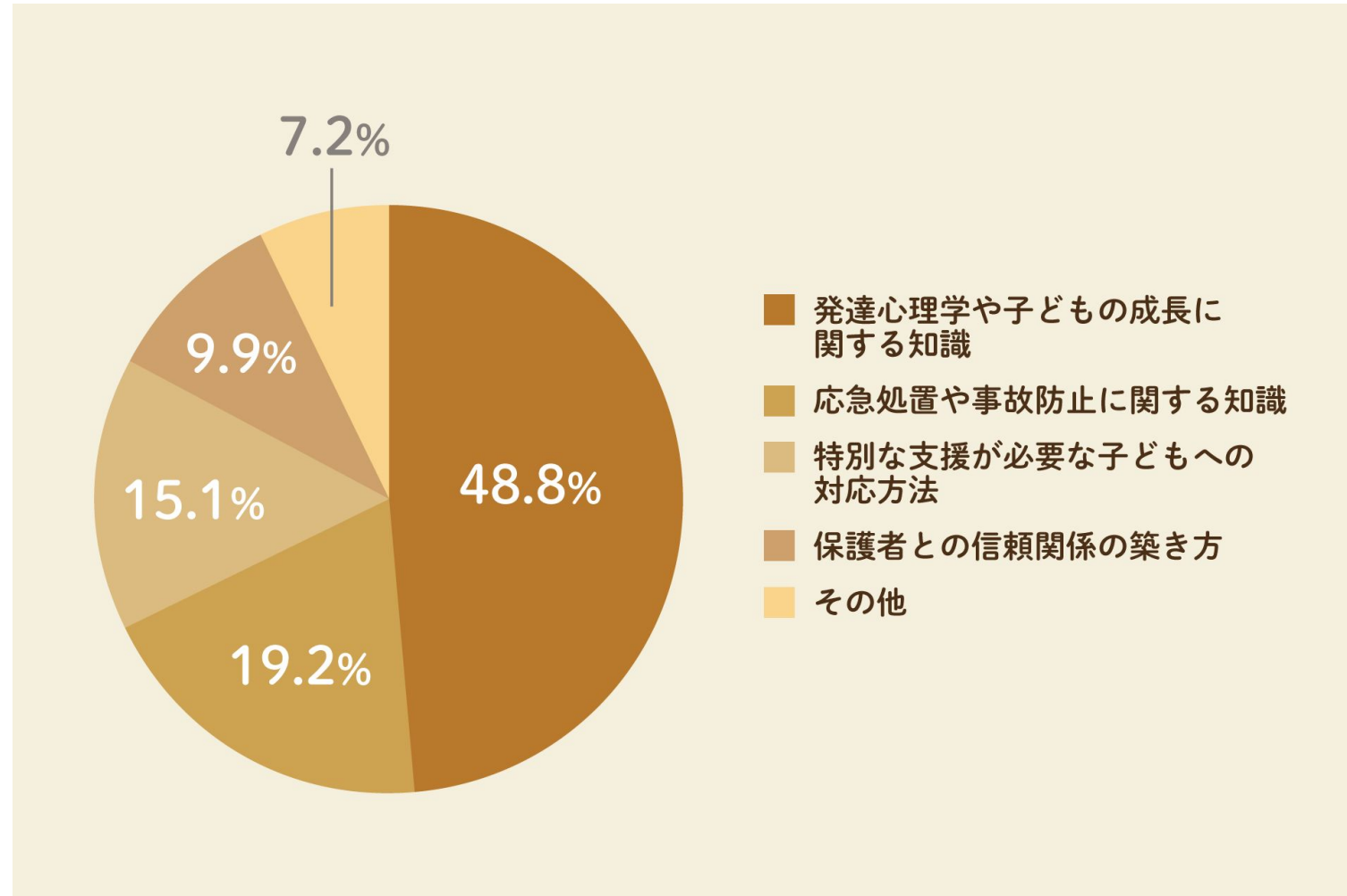
KIDSNAシッターで行っている研修制度とサポート体制については、7割以上が肯定的な意見を持っている一方で、「もっと研修の機会がほしい」という声も2割程度あり、更なる充実を求めるニーズがあることも分かった。



今後、シッターとしてどのようなスキルや知識を身につけたいですか？

今後のスキルアップとして「発達心理学や子どもの成長に関する知識」(48.8%)を最も重視する方が多く、次いで「応急処置や事故防止に関する知識」(19.2%)、「特別な支援が必要な子どもへの対応方法」(15.1%)という結果となった。このことから、ベビーシッターは子どもの発達に合わせた保育、そして安全確保や多様なニーズへの対応といった専門性の向上に意欲的だということが分かった。

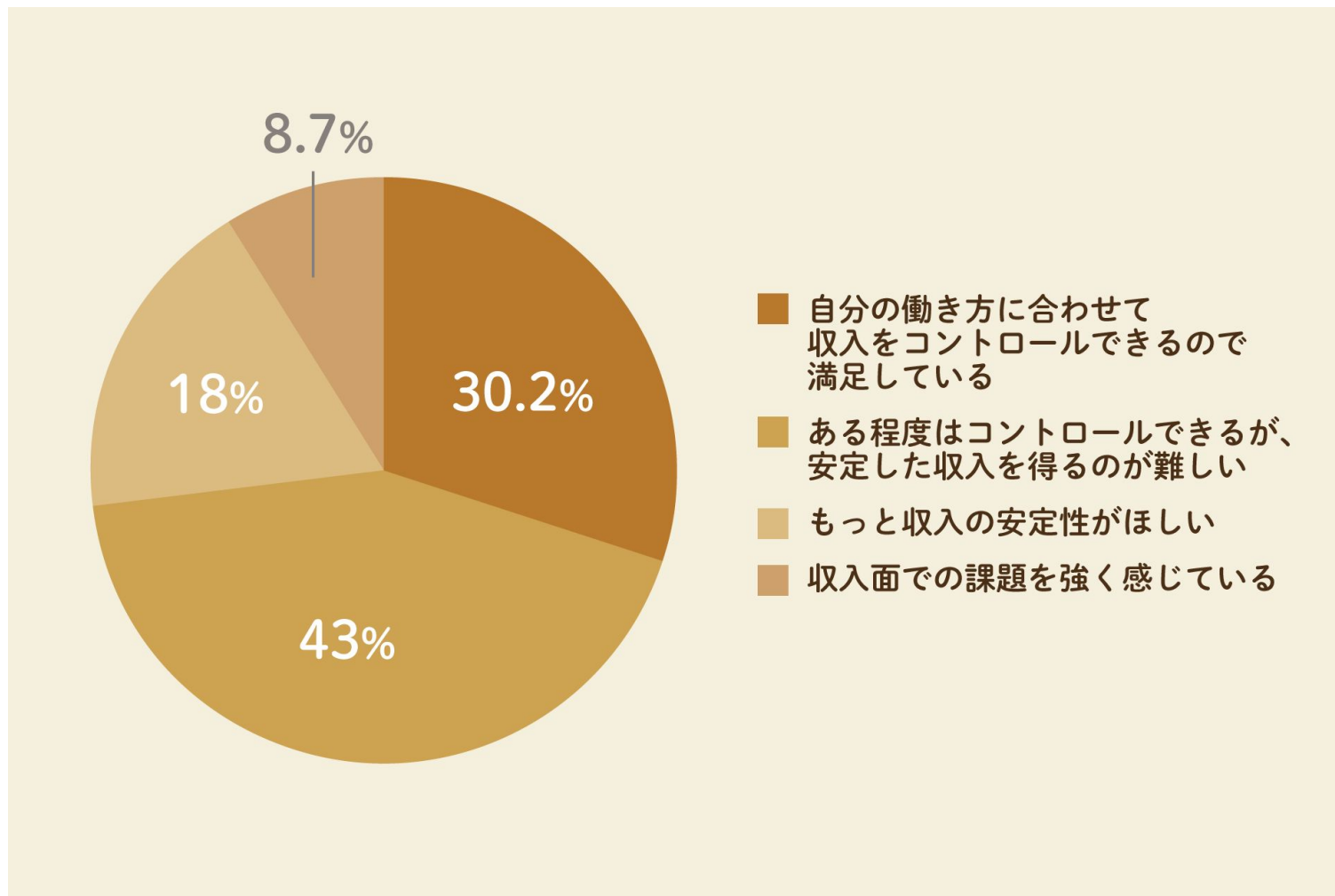
一方で、「保護者との信頼関係の築き方」(9.9%)は比較的低い結果となり、コミュニケーションスキル向上への支援も必要であることが示唆されている。



シッターの仕事において、収入の自由度についてどう感じていますか？

30.2%のシッターは働き方に合わせた収入コントロールに満足しているが、43%は安定性に欠けると感じている。また、約3割は収入の安定性を強く求めている。

つまり、ベビーシッターの多くは自由な働き方を望む一方で、安定した収入を得ることの難しさを感じているということが分かった。



KIDSNAシッターとしての働き方について、魅力を感じる点を教えてください。

最も評価されているのは「働く時間や日数を自分で決められる」点で、88.4%と高い支持を得ている。これは、ベビーシッターの仕事における時間的自由度の高さが求められていることを示唆している。

また、「収入を自分のスキルや稼働時間に応じて調整できる」(54.7%)、「やりがいのある仕事を自分のペースでできる」(54.1%)点も高く評価されており、収入と働き方の両面で自由度が高い点が魅力だと言ったことが分かった。

働く時間や日数を自分で決められる

88.4%

収入を自分のスキルや稼働時間に応じて調整できる

54.7%

やりがいのある仕事を自分のペースでできる

54.1%

さまざまな家庭や環境で経験を積める

37.8%

保育の質向上のために、今後、こども家庭庁に期待する施策があれば教えてください。

ベビーシッター補助券・助成金

- ベビーシッター補助券は利用しづらいという声が多く、企業との連携や利用条件の厳しさが課題です。専業主婦や育休・産休中の人も使えるよう、制度の見直しを求めます。
- 東京都のシッター補助金制度は、地方では情報不足や利用の難しさがあるようです。個人申請が可能になれば、シッター需要の増加が見込まれると思います。
- ベビーシッターをすべての家庭で利用できるように助成を検討して欲しい。特に、産後すぐの家庭の支援が足りておらず、産後うつや育児疲れの家庭が多過ぎると感じます。
- ベビーシッター利用促進のため、育休者を含む幅広い層への補助券配布を希望します。現状、保護者はベビーシッター料金を高額と感じています。保育園無償化との差が、その認識を助長していると思います。

ベビーシッターについて

- 保育者が孤立せず長く働ける環境づくりが必要。保育者同士のネットワークを構築し、経験や知識を共有できる仕組みが欲しい。また、困ったときに相談できる窓口や支援体制をこども家庭庁が整備してほしい。
- シッター専用の研修や補助金制度などを確立し、安定して働けるようにすることで、各家庭の支えとなる必要な仕事として、社会の中でシッターの地位が向上する施策を期待します。

保育の質向上のために、今後、こども家庭庁に期待する施策があれば教えてください。

保育士について

- 保育の質向上として、まず保育園は人を増やすべきで、働いていない保育士達の雇用を促進するために、短時間雇用などの柔軟さが必要ではないか。
- 現職は知識や経験の共有、アップデートを行い、全国どこでも統一された質と環境のもとで保育にあたれることが望ましい。
- いまだにICTの未導入やタイムカードすら導入していない施設がある様子なので、質を上げると同時に業務改善、根本的な職場改善を要求します。
- 保育士育成学校の専門性の向上育成機関に誰でも入れるようでは、仕事を始めてから歪みが生じます。入試の時などに、子どもと接する上での適正テストや、より専門性の高い授業内容や実習を求めます。
- ブラックリストの作成過去、事件を起こした保育士は免許剥奪の上、ブラックリストに載せて、二度と保育業界に戻れないようにしてほしい。
- 有識者会議というものがあるのなら、20代～60代、管理職と平社員、公立と社福・株式などなど...、様々な立場から広く現状を伝える会議にしてほしい。
- 保育士は大切な命を預かる専門職です。看護師と同等の給与水準を求めます。子どもたちの未来を支えるため、待遇改善による意欲向上を期待します。
- 保育現場は、賃金向上することで、保育士の専門性を高めていく意識とやりがいが出てくるとおもいます。人員不足もとても感じています。

保育の質向上のために、今後、こども家庭庁に期待する施策があれば教えてください。

その他

- 保育園や幼稚園では、気になる子どもを安易に療育に頼る傾向が見られます。園が過ごしやすい環境を整え、人員を確保することで、療育への過度な依存を減らし、社会や地域で共に過ごすことを基本とする認識を共有する必要があります。
現状では、園長などのトップが療育偏重の考えを持ち、対応が難しい子どもを排除しようとする傾向が強く、本当に療育が必要な子どもが適切な支援を受けられないケースも発生しています。また、療育施設の中には、利益のみを追求し、本来の役割を理解していない事業所も存在しており、子どもの成長過程に深く関わるという自覚がない施設への対策をお願いしたいです。
- 現場の保育士が保育の質を向上させていることは良いですが、質の向上を理解する管理職の不足や、保護者の理解と協力が求められています。働き手ばかりが向上するのではなく、それを取り巻く環境の変化も必要だと感じています。

これらのアンケート結果から、ベビーシッターは、**多岐にわたる要素を総合的に高めることで、質の高い保育を実現しようと努力している**と言えます。それは、単に子どもの世話をするだけでなく、専門知識に基づき、安全に配慮し、保護者と連携しながら、子どもの成長を支援するという、**複雑で専門性の高い仕事**として認識されていることの表れです。

ただし、研修機会のさらなる充実へのニーズや、今後身につけたいスキルの内容からは、**常に自己研鑽を続け、保育の質を向上させていきたいという意欲**がある一方で、現状の研修制度やサポート体制だけでは、そのニーズを十分に満たせていない可能性も示唆されています。

こども家庭庁への期待としても、研修制度の確立や補助金制度の拡充が挙げられていることから、**外部からのサポートによって、より安定して質の高い保育を提供できる環境整備が求められている**ことが伺えます。

全体として、このアンケート結果は、ベビーシッターの保育の質に対する意識と、さらなる向上への取り組みを示すものであると同時に、その実現のためには、**継続的な研修機会の提供や、専門性を高めるためのサポート体制の充実が重要である**ということを示唆していると考えられます。